

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No. 2 - 14)

件名	逆止弁の内部構造物の復旧ミスによる蒸気漏えい	
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 分離建屋: 第1酸回収工程</p> <p>(2) 発生状況 改造工事後の確認運転中</p> <p>(3) 概要 逆止弁の内部構造物が無いことに気づかず、スチームジェットへ蒸気を通気したため、通常逆止弁で止まる蒸気が分離ポットを介してファンネル(排水収集口)から噴出し、火災感知器が感知し、火災警報装置が作動</p> <p style="font-size: small;">*他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。</p>	
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 分離建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 逆止弁の内部構造物が無いまま蒸気を通気した場合、分離ポットにて“温度高”警報が発報し、蒸気の供給を停止するので、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 放射性物質を含まない蒸気の漏えいであり、ファンネルから噴出する蒸気は、温度が低いので作業員への影響は生じない。 また、逆止弁の復旧作業にあたっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 改造工事後の確認運転中に発生した事象であるため、他工程への影響は生じない。</p>	
対応の概要	<p>(1) 火災警報装置は実火災による作動ではなく蒸気による作動であることを確認する。</p> <p>(2) スチームジェットへの蒸気の供給を停止する。</p> <p>(3) 定められた保守作業手順に従って、逆止弁の保守を行う。</p> <p>(4) 保守終了後、逆止弁の作動確認を行い、異常のない場合は、定められた操作手順により運転を再開する。</p>	
公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページ掲載)	
対応区分	<p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転システムを切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p>	<p>国際評価尺度 (INES) のレベル</p> <p style="text-align: center;">0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p style="font-size: small;">(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p style="text-align: center;">放射性物質の外部放出 工場外への影響</p> <p style="text-align: center;">放射性物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p style="text-align: center;">日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p style="font-size: x-small;">運転時確認困難からの逸脱等 多重防護の劣化</p>

本事象は当該機器停止時の保守作業中に発生したもので対応区分該当なし。

